

国際小児がんデー 啓発キャンペーン報告書

2016.2.1～3.31



CCA J

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

がんの子どもを守る会は、1968年に小児がんで子どもを亡くした親たちによって設立され、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの患児・家族を支援しようという趣旨のもと活動している団体です。

——毎年2月15日は「国際小児がんデー」です。

International Childhood Cancer Day

毎年世界中で17万5千人もの子どもたちががんと診断され、

そのうちのおよそ9万人の子どもたちが幼い命を奪われています。

こうした厳しい現実を知ってもらう目的で、国際小児がんの会（CCI*）は、

毎年2月15日を「国際小児がんデー」とし、2002年以来、世界中の

団体と連携してさまざまなキャンペーンやイベントを実施しています。

当会もこの趣旨に賛同し、毎年この時期に「国際小児がん月間」を設け、

小児がんに対する理解と支援の輪が広がることを目指して、本部・支部、

会員、ボランティア、支援者が一体となり、全国一斉に小児がん啓発

キャンペーンを展開しています。

小児がんの医療が向上し、療養環境が一層整備されていくことを

心から願っています。



*CCI（Childhood Cancer International）とは・・・



世界中の小児がん患者が最善のケアを受けることができるように、情報や経験を分かち合うことを使命として設立された連盟です。2016年現在、90か国から177の親・経験者の会が加盟しており、国際的なネットワークを築いています。

がんの子どもを守る会は、世界で最も歴史のある小児がん親の会として1997年より加盟しています。

当会の本部・支部が一体となり、全国一斉に啓発キャンペーンに取り組むのも3年目。今年には厚生労働省から後援、(公財)原田積善会から協賛をいただき、早くから関係者へ協力の呼びかけをしたために、昨年の数を大きく上回る会場でイベントや常設展示などを開催することができました。

おかげさまで、2016年2月1日～3月31日のキャンペーン期間中に 5,769,297円の募金・寄付が集まりました。集まった募金・寄付は小児がんの子どもや家族のために活用するとともに、その一部は、CCIを通じて発展途上国の小児がん医療向上に役立てていただきます。

啓発・チャリティグッズ

本年もチラシやオリジナルTシャツなどの啓発・チャリティグッズを作成し、会報誌やリリース等でご紹介したところ、大変多くのご協力をいただきました。

オリジナルTシャツ

ゴールドリボン(バッジ&ストラップ)

啓発チラシ

啓発ポケットティッシュ

約650枚

約2000個

約5万枚

約15000個



啓発カード



啓発ポケットティッシュ



発送作業中...

たくさんのお申込みありがとうございました！

2016 2.15 国際小児がんデー

INTERNATIONAL CHILDHOOD CANCER DAY

ご存じですか!?

あなたの理解が小児がんの子どもたちの闘病と成長を支えます。日本各地で啓発活動が行われます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

<http://blog.canpan.info/nozomi/>

ウェブサイトで、メッセージの募集や動画の作成を行っています。

ゴールドリボンは、小児がんの啓発と支援を呼びかける世界共通のシンボルマークです。

オリジナルTシャツをきて小児がんの子どもたちを応援しよう!

啓発のオリジナルは、デザインが統一されています。

お問い合せ先: 公益財団法人がんの子どもを守る会 TEL 03-5625-6311 FAX 03-5625-6316

啓発チラシ

小児がん啓発へ
全国でイベント

絵画展示や募金活動

小児がんの現状を知ってほしい、治療環境の向上や闘病経験者の社会復帰支援につなげよう、と。

家族らでつくる公益財団法人「がんの子どもを守る会」(東京)は2月から3月にかけて、宮城、長野、広島、福岡各県など全国20カ所以上で啓発イベントを展開する。2月15日の「国際小児がんデー」に合わせて取り組み。イベントは各地の駅前や県庁、商業施設、医療機関などで開催。小児がんの子供が日常生活の様子や夢を描いた絵画パネルを展示するほか、パンフレットを配布したり、募金を呼び掛けたりする。

守る会のソーシャルワーカー、片山麻子さんは「絵を描いた子供の中には、亡くなってしまった子もいる。小児がんの現状とともに、命の大切さも伝えたい」と話す。

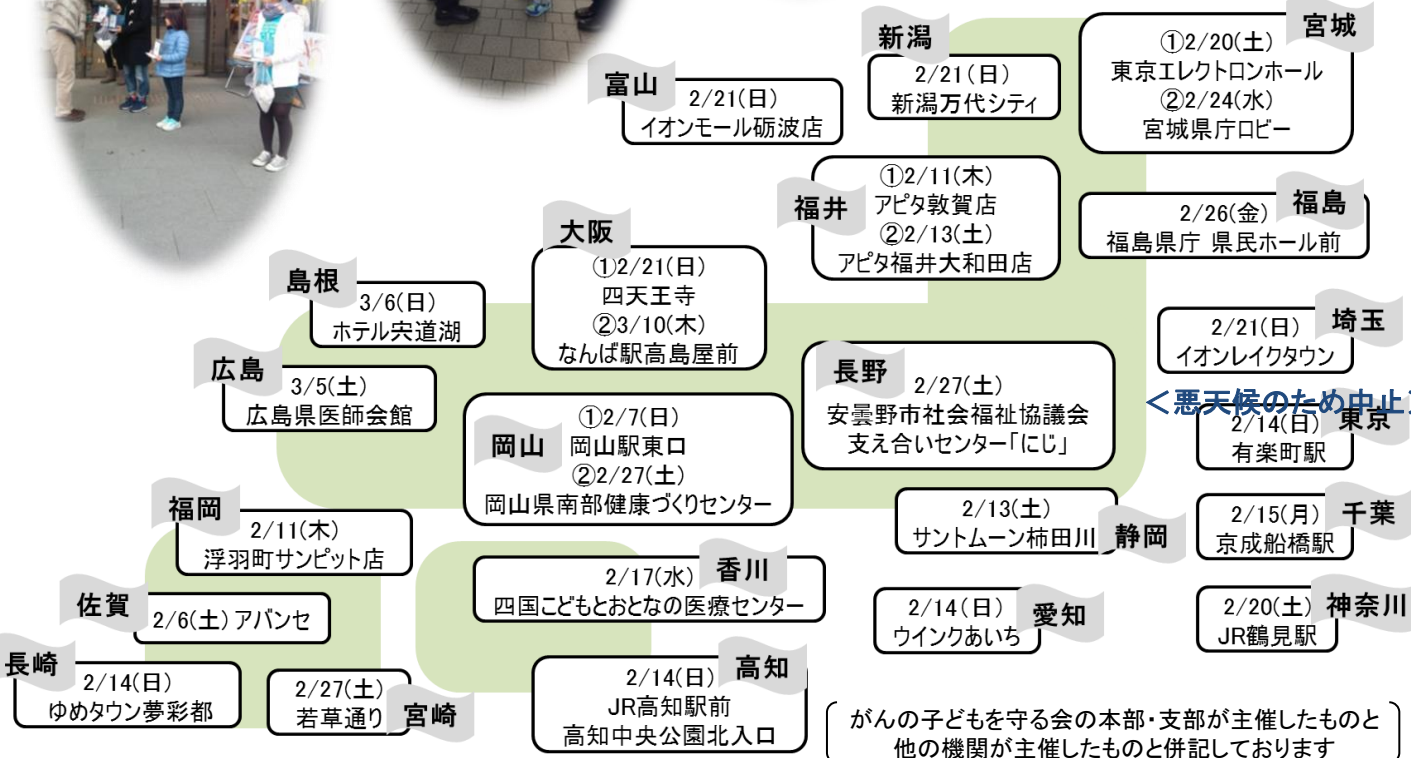
守る会によると、治療環境の整った遠方の病院に入院する子供も多く、付き添う家族への支援の拡充が急務だという。

2016年2月9日付の日経新聞にて
キャンペーンをご紹介いただきました。

イベントなど



宮城: 県庁からのバックアップが大変ありがたかったです。



高知: 同級生を小児がんで亡くした中学生たちが、街頭で声を張り上げてくれました。



新潟: ポスターを段ボールに貼りつけてPR。募金の呼び掛けや小児がんへの理解を訴えました。



福井: 啓発活動を手伝ってくれた敦賀市立看護大学と敦賀気比高校の学生さんたち。これからは小児がんについて何か取り組みたいなどの前向きな感想を寄せてくれました。

駅や街頭、ショッピングモールなどで、啓発チラシやポケットティッシュの配布、募金活動を行いました。

また、各地で、小児がんについて考えるシンポジウム、講演会なども開催し、小児がんの現状や当会の活動を紹介し、患児・家族の抱える問題などに触れ小児がんへの理解を呼びかけました。



特別に許可をいただいている大阪市の四天王寺境内での募金活動。場所柄もあり、多くの方からご芳志をいただきました。



神戸フィルハーモニックコンサート会場にて。指揮者の方も、募金への呼び掛けをしてくださいました。



ノバルティスファーマ様にて。小児がんの講演会と絵画パネルの展示をさせていただきました。



小橋建太さん(元プロレスラー)
当会の活動の強力な応援団です。



日本の小児がん医療をリードする先生方。
学術集会懇親会にて着用していただきました



フットサルでご活躍中！
久光重貴選手(左・湘南ベルマーレ)
鈴木拓也選手(右・デウソン神戸)

私たちも応援しています！



お忙しい合間を縫って、啓発チラシの配布にご協力いただきました！
左：フットケアなゆた様、右：明治安田生命保険相互会社様



日本チャールス・リバー様よりいただいた写真。社内一丸となってキャンペーンにご協力くださいました。

ご協力いただいたイベントなど

世界らん展、小橋建太バレンタイントークショー、西口プロレス15周年大会、横浜がんフェスタ、神戸フィルハーモニックニューイヤーコンサート2016、がんを知る展、島根県小児がん患者とその家族の支援について考えるシンポジウム、ラ・ヴィータアンサンブル19年目のコンサート、小児がんの子ども教育・広島、Rare Disease Day 2016 in OKAYAMA、国際対がん連合(UICC)世界対がんデー2016公開シンポジウム、他(順不同)

周辺の調剤薬局
や小児科にも
啓発チラシを
置いていただき
ました！

A large Christmas tree made of green paper, decorated with many small white cards and gold tinsel, displayed on a table.



島根県庁主催で、小児がんのシンポジウムが開催されました。受付に設置されたゴールドリボンツリー。

公共施設や病院、ショッピングモールの一角を使って、小児がんの子どもたちが描いた絵画のパネルや小児がんの資料展示を行いました。また、福井支部が過去実施し、好評だったゴールドリボンツリー(小児がんのシンボルである「ゴールドリボン」で装飾したツリー)が他支部や地域でも広がり、ツリーが賑やかに装飾されたり、応援メッセージがたくさん寄せられたりするなどの反響がありました。一般の方が多く立ち寄る場所での常設展示は、小児がんの認知度向上に一役買ってくれたことと思います。



第一生命保険(株)大阪市本町事業所の方々。絵画パネルの展示を通して、小児がんへの理解を呼びかけました。募金だけでなく、ペアレンツハウスで使用するアメニティ品も寄贈いただきました。



2016年2月20日付宮崎日日新聞：宮崎県日南市北郷小中学校正門前に設置されたゴールドリボンツリー。黄金に彩られました！



大阪でのアフラック主催「がんを知る展」会場内に小児がんのブースとして資料やゴールドリボンツリーを設置させていただきました。



毎年15万人が来場する世界らん展(東京ドーム)にブースを出展。多くの方が子どもたちが描いた絵画を熱心にご覧くださいました。



小児がんの中央機関である国立成育医療研究センターにて。シンポジウムの開催にあわせて資料やポスターを展示させていただきました。



県庁や市役所での啓発展示は、多くの市民の方に関心を持っていただく絶好の機会。小児がんの子どもたちが描いた絵が会場に華を添えてくれました。



(左：福岡県庁、右：敦賀市役所)



沖縄県名護市の名護桜祭りの会場にて。小児がん経験者の方がお一人で啓発に努めてくださいました。

取りあげていただいた主なメディア

日本経済新聞、福井新聞、福井県内のCATV、福井放送、
岡山山陽新聞、宮崎日日新聞、新潟日報、四国新聞、産経新聞(高知版)

小児がんの理解深まる

普通寺で啓発イベント
小児がんについて理解を深めてもらうと、家族らでつくる公益財団法人「がんの子どもを守る会」(東京)は17日、普通寺市仙遊町の四国子どもとおとなの医療センターで啓発イベントを行い、治療環境の向上や闘病経験者の社会復帰支援などを呼び掛けた。

15日の「国際小児がんデー」に合わせた取り組み。

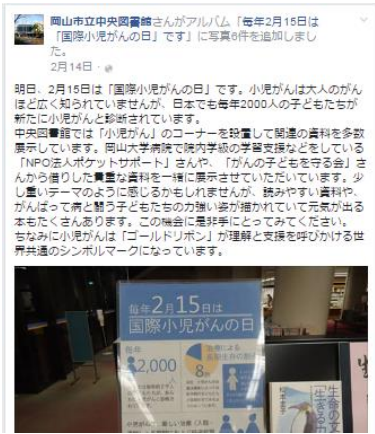
小児がんの子どもが描いた絵画パネルを展示し、啓発チラシの配布や募金の呼び掛けを行った。趣意に賛同した親子連れらは募金箱に寄付したり、支援のシンボルのゴールドリボンをソリに結んだりしていた。

小児がんは子どもの病死原因1位で、年間約2千人が新たに診断されているという。同会香川支部代表幹事の中村桂井さん(51)は「周囲のサポートが必要。小児がんの現状や親が抱えている悩みなどを知ってほしい」と話した。

小児がんへの支援を訴えるシンボル、ゴールドリボンをソリに結ぶ親子—普通寺市仙遊町



「つるいち!」(嶺南ケーブルネットワーク)



岡山市立図書館facebook



2月17日付 産経新聞(高知版)



2月8日付 山陽新聞

ご協力いただいた行政機関、公共施設、病院など

北海道庁、宮城県庁、福島県庁、福井県済生会病院、本馬医院(福井県小浜市)、敦賀市役所、国立成育医療研究センター、島根県、島根大学医学部附属病院、岡山大学病院、岡山市立中央図書館、いのうえ小児科(愛媛県東温市)、九州大学病院、福岡県庁、宮崎県日南市北郷中学校、宮崎大学医学部附属病院、日本小児血液・がん学会、日本小児がん看護学会、日本小児がん研究グループ、他

ご協力いただいた企業など

株式会社Fortune KK、株式会社なゆた、資生堂株式会社、第一生命保険株式会社大阪市本町事業所、日本生命保険相互会社、日本チャールス・リバー株式会社、ノバルティスファーマ株式会社、明治安田生命保険相互会社、他(順不同・敬称略)

公益財団法人 がんの子どもを守る会

本部 〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL: 03-5825-6311 FAX: 03-5825-6316

大阪事務所 〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺2-3-1
TEL: 06-6263-1333 FAX: 06-6263-2229